様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２３２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１２０８７

研究課題名（和文）米国との連携によるICTを活用した看護倫理教育プログラムの開発と教育効果の検証

研究課題名（英文）Development of a nursing ethics education program using ICT in collaboration with the U.S. and verification of educational effectiveness

研究代表者
岡本　恵里（Okamoto, Eri）

富山県立大学・看護学部・教授

研究者番号：２０３０７６５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：現役の看護職を対象としたICTを活用した看護倫理教育プログラムの開発を目指した。研究スタート段階では、集合授業とｅラーニングによるブレンディッドラーニング（複数の学びをブレンドして構築する方法）の研修プログラムを構築する計画であったが、COVID-19の影響を受けて全てをｅラーニングで行うことにした。
教育内容の見直しを繰り返した結果、5つのコンテンツに補助教材を追加する構成とし、学習項目ごとにミニテスト形式の回答を要求し、その正誤をフィードバックすると共に、誤答の場合はヒントを示すプログラムを組み込んだ。また講師によるミニレクチャーや関心が高まるようなコラムも組み入れた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
看護基礎教育の歴史的背景により、現役の看護職者の中には看護倫理教育を受けていない者も多く、卒業後の現任教育に委ねられているが、その教育内容も標準化されていない。
そこで、看護職が主体的に看護倫理について学びながら、倫理的課題について思考し続けることができる事を目指し、課題解決型の能動的学習（アクティブ・ラーニング）ができるeラーニングによる看護倫理教育プログラムを構築した。
これは、看護職の倫理的能力（推論・行動）の個人差・施設格差が認められている現任教育の充実に向けて意義を持つものと考える。

研究成果の概要（英文）：We aimed to develop a nursing ethics education program using ICT for active nursing professionals. At the start of the research, the plan was to build a blended learning (a method of blending and building multiple learnings) through group classes and e-learning, but due to the impact of COVID-19, it was decided to do everything with e-learning.
As a result of repeated revisions to the educational content, supplementary teaching materials were added to the five contents, and a mini-test-style answer was requested for each learning item, and a program was incorporated to provide feedback on the correctness of the answer and to provide hints in case of incorrect answers. It also included mini-lectures by lecturers and columns to raise interest.

研究分野：看護学

キーワード：看護倫理　教育プログラム　ICT　教育効果　現任教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

我が国の看護倫理をめぐる経緯については、1970 年頃までは「美徳中心」とした時期であり、その後 20 年間は「看護倫理」の言葉が消えていたことが報告されている。そのため現役の看護職者の中には看護倫理教育を受けていない者も多く、卒業後の現任教育に委ねられているが、看護職の倫理的能力は個人差・施設格差が認められる現状にある。

こうした現状をふまえ、日本看護協会は 2008 年には教育を強化するため、ホームページに「看護倫理―看護職のための自己学習テキスト」コンテンツを掲載している。一方、看護基礎教育では 2009 年のカリキュラム改正により「看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う」内容がようやく加えられている。しかし、全国の看護系大学の各大学ホームページに公開されている 2011 年版のシラバスを調査した研究によると、「看護倫理」を開講している大学は 42%、必修科目としていたのは 80%、多くの大学は 1 単位であったという。また、看護基礎教育や現任教育に関する複数の実態調査によれば、教育内容においては生命倫理や医療倫理との違いが明確でないことや、知識の伝達に留まっているという指摘、教授方法や内容に関する研究も多くない現状が明らかにされている。

報告者が実施した「看護職者の倫理的問題状況への対処行動に影響する要因」に関する調査研究でも、看護職らは倫理的ジレンマを抱きながらもその倫理的問題を直視できないでいること、回避的対処を選択していること、患者や家族を擁護（アドボカシー）できていないことを自己の責任と捉えてしまい、強いストレスを抱えながら業務に就いている具体的現状が見えてきた。

以上のことから、看護基礎教育卒業後も、看護職が主体的に看護倫理について学びながら、倫理的課題について思考し続けるためには、課題解決型の能動的学習（アクティブ・ラーニング）が適しており、能動的学修を促す教育方法の一つとして e ラーニングが有効であると考えた。しかし e ラーニングは自分のペースで行えるという環境から学習意欲を失う者や、個人特性の影響を受けることから、e ラーニングが不向きな者も居るという欠点も明らかにされている。

そのため近年では、対面学習と e ラーニングをブレンドする、ブレンディッドラーニングが取り入れられるようになった。都合のつく時間に自分のペースで繰り返し学習できるという長所を持つ e ラーニングが適している知識獲得型・記憶型の学習と、グループ・ディスカッション、ディベートなどにより、考える力や新しい知を生み出す集合学習を組み合わせるものである。

看護職の勤務シフトは複雑であり、決まった曜日や時間に遠距離の研修会場まで足を運ぶことは難しく、e ラーニングによる学習が適している。しかし看護現場に生じている複雑な事象に存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力や自身の倫理的感受性を高めていくためには、グループ・ディスカッションやディベートなどの学習方法が適している。そこで本研究では、報告者らのこれまでの看護倫理に関する教育・研究、e ラーニング教材開発と学習効果を検証してきた経験やネットワークを生かし、看護倫理教育プログラムを開発し、ブレンディッドラーニングによる教育効果を検証しようとするものである。

２．研究の目的

本研究では、現役の看護職を対象とした『ICT（information and communication technology）を活用した看護倫理教育プログラムの開発と教育効果の検証』に取り組む。この際、多様な勤務体制にある看護職にも対応できるブレンディッドラーニングを導入することにより、倫理教育の効果が高まることを検証する。

３．研究の方法

研究スタート段階では、「集合授業５回、ｅラーニング 10 回程度」のブレンディッドラーニングを行い、集合授業では事例を検討するグループワークを取り入れる計画に基づき教材作成を進めていた。しかし COVID-19 の拡大に伴い集合授業を実施することが困難となり、全てをｅラーニングで行う内容に組み替えると共に、グループワークもオンラインで実施できるように教材の修正を進めた。その後も COVID-19 による看護職の業務負担が軽減しないことから、協力病院の教育研修担当者より、オンラインによるグループワークの時間を組み込むような勤務調整は現実的に難しいとの意見もあり、事例分析を一人で進める方法に修正を進めた。

以上のように、研究期間中に研究の方法の修正を重ねながら取り組んだ。

（１）看護職の現任教育における倫理教育の現状と課題

関連書籍、先行文献、米国での看護教育経験を持つ教員や国内の現任教育担当者らとの協議、報告者らの看護倫理教育・研究での知見に基づき、現任教育における倫理教育の現状と課題を明らかにする。

（２）教育プログラムの作成

（１）の結果に基づき教育目的・目標を定め、教育内容や方法、学習成果の評価方法、ｅラーニングシステム等の教育環境を設定する。

（３）教育教材・学習評価指標の作成

教材の構成を検討し、各学習テーマに沿った教材の作成、事例の提示、理解度確認のためのミニテスト、正誤に対するフィードバックコメントを作成する。また、対象者からの質問等にも適宜対応できるシステムや、セキュリティ対策を講じる。

（４）教材の評価やユーザビリティの評価

開発した看護倫理教育プログラムのユーザビリティ等を評価し、Web サイト構築のための条件や課題を明らかにする。

４．研究成果

看護職が日常業務において、倫理的推論に基づいた倫理的な行動をするためには大きく以下の４項目が課題であることが明らかとなった。「①意思決定支援・ACP：対象者の生活や価値観等を踏まえた合意形成ができていない／家族や身寄りがない人の選択／意思決定能力を持たない、または低下している時の選択」、「②知る権利・知らされない権利：病気や治療・処置、生活の在り方等の情報提供内容や時期が適切でない／患者･家族･医療者間に意向や価値の対立がある」、「③倫理的行動：倫理原則・倫理的概念に基づいた倫理的推論により、倫理的課題であることを説明できないケースが多い／コミュケーションやマンパワー不足により、対象者の尊厳を重視したケアが不十分（身体拘束・強制的なケア・鎮静・隔離や面会制限・アドボカシー)」、「④看護･医療チーム内での事例検討：倫理カンファレンスでの話し合いが不十分／共通した倫理に関する用語理解の不足、意思決定のための分析ツールへの理解不足／ファシリテーターの不足／倫理研修の内容が表面的で深まらない／所属内に倫理に関する相談窓口･サポート体制がない」。

これらの課題を基に、5 つのコンテンツに補助教材を追加する構成でｅラーニング教材を作成した。コンテンツでは学習項目ごとにミニテスト形式の回答を要求し、その正誤をフィードバックすると共に、誤答の場合はヒントを示すプログラムを組み込み、途中で学習を挫折することがないように工夫した。各コンテンツでは、学習者が画面を見ながら自ら学ぶ方法に加え、講師によるミニレクチャーや本題への関心が高まるようなコラムも組み入れ、学習に飽きないよう工

夫した。

学習効果の評価方法に関しても、当初計画では学力評価は中間と最終時に実施する予定であったが、全てをｅラーニングで行う方式に変更したことから、各コンテンツ終了後に実施する方法で内容を修正した。パフォーマンス評価はｅラーニングの性質上断念し、達成度評価は５つのコンテンツに合わせた内容および全体評価で構成し、５段階評価を設定した。加えて本教育プログラムに対する満足度や改善点の要望などを調査するシステムを組み入れた。学習者個々の学習履歴や、コンテンツ全体のアクセス数などのログ管理についても検討を加え修正した。

これまで研究進捗の遅れが続いたことから、全てのデータ分析は終えられていないが、引きつづき学習者の支援をしながら進め、Web サイトでの教材公開を目指していく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 土肥美賀,岡本恵里
２．発表標題 新人看護師の職業性ストレス体験におけるストレス認知と評価の特徴
３．学会等名 第43回日本看護研究学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 鈴木聡美,岡本恵里
２．発表標題 認知症患者の攻撃的行動に対する認知症認定看護師の看護ケアの実際
３．学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩崎涼子,岡本恵里
２．発表標題 災害拠点病院における看護倫理研修会の実施状況と現任教育内容に関する認識
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩崎涼子，岡本恵里
２．発表標題 認知症高齢者と家族の看護における倫理的ジレンマおよび看護倫理に関する学習ニーズの実態からみた教育課題
３．学会等名 日本看護倫理学会 第14回年次大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	青柳　寿弥 (Aoyagi Hisami) (40622816)	富山県立大学・看護学部・准教授 (23201)	
研究分担者	長江　美代子 (Nagae Miyoko) (40418869)	日本福祉大学・看護学部・研究フェロー (33918)	
研究分担者	竹内　登美子 (Takeuchi Tomiko) (40248860)	富山県立大学・看護学部・教授 (23201)	分担者削除 2023年6月28日学振承認
研究分担者	鈴木　聡美 (Suzuki Satomi) (80442193)	三重県立看護大学・看護学部・助教 (24102)	分担者削除 2018年3月22日学振承認

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関